記者発表資料

水資源機構

令和７年７月１６日
独立行政法人水資源機構
揖斐川・長良川総合管理所

長良川河口堰では洪水を安全に流下させるゲート全開操作を終了
～塩水遡上を防止し安定取水確保のため平常時の操作に切り替え～

１．概要

長良川河口堰では、低気圧の影響による洪水を安全に流下させるため、７月１５日（火）１２時１９分にゲートを全開にしました。その後、河口堰地点流量が全開操作の基準流量毎秒８００立方メートルを下回ったことから、塩水遡上を防止し水道用水等の安定取水を確保するため、７月１５日（火）１５時１８分に全開操作を終了し、河川環境の保全に配慮しつつ、平常時の操作に切り替えました。なお、塩水の遡上はありませんでした。

２．状況

流域平均累計雨量　：　８９ｍｍ（７月１４日１５時から７月１５日１２時）
河口堰最大流入量　：　毎秒約８００立方メートル（７月１５日１３時２０分）
全開操作開始時刻　：　７月１５日　１２時１９分
全開操作終了時刻　：　７月１５日　１５時１８分
全開操作継続時間　：　２時間５９分
※上記の流量は速報値であり、今後変更になることがあります。

今回の全開操作は、平成７年７月の河口堰運用開始以降２１９回目であり、本年においては４回目となります。

また、運用開始以降最大の出水は、平成１６年１０月台風２３号による洪水であり、忠節地点毎秒７,６６７立方メートルの流量を観測しています（国土交通省水文水質データベースより）。

発表記者クラブ：　中部地方整備局記者クラブ、岐阜県政記者クラブ、三重県政記者クラブ、第二県政記者クラブ（三重県）、桑名記者クラブ

お問合わせ先：揖斐川・長良川総合管理所
総務課長　恵谷（えや）
住所：三重県桑名市長島町十日外面１３６番地
電話：０５９４－４２－５０１２（代表）

※この記者発表資料は、長良川河口堰ホームページでご覧いただけます。
URL　https://www.water.go.jp/chubu/nagara/index.html

ゲート全開操作開始後の長良川河口堰

7月15日13時撮影

堰下流側

堤防より高い位置にゲートを引き上げ

ゲート全開操作終了後の長良川河口堰

7月15日18時撮影

堰下流側　オーバーフロー操作に切り替え

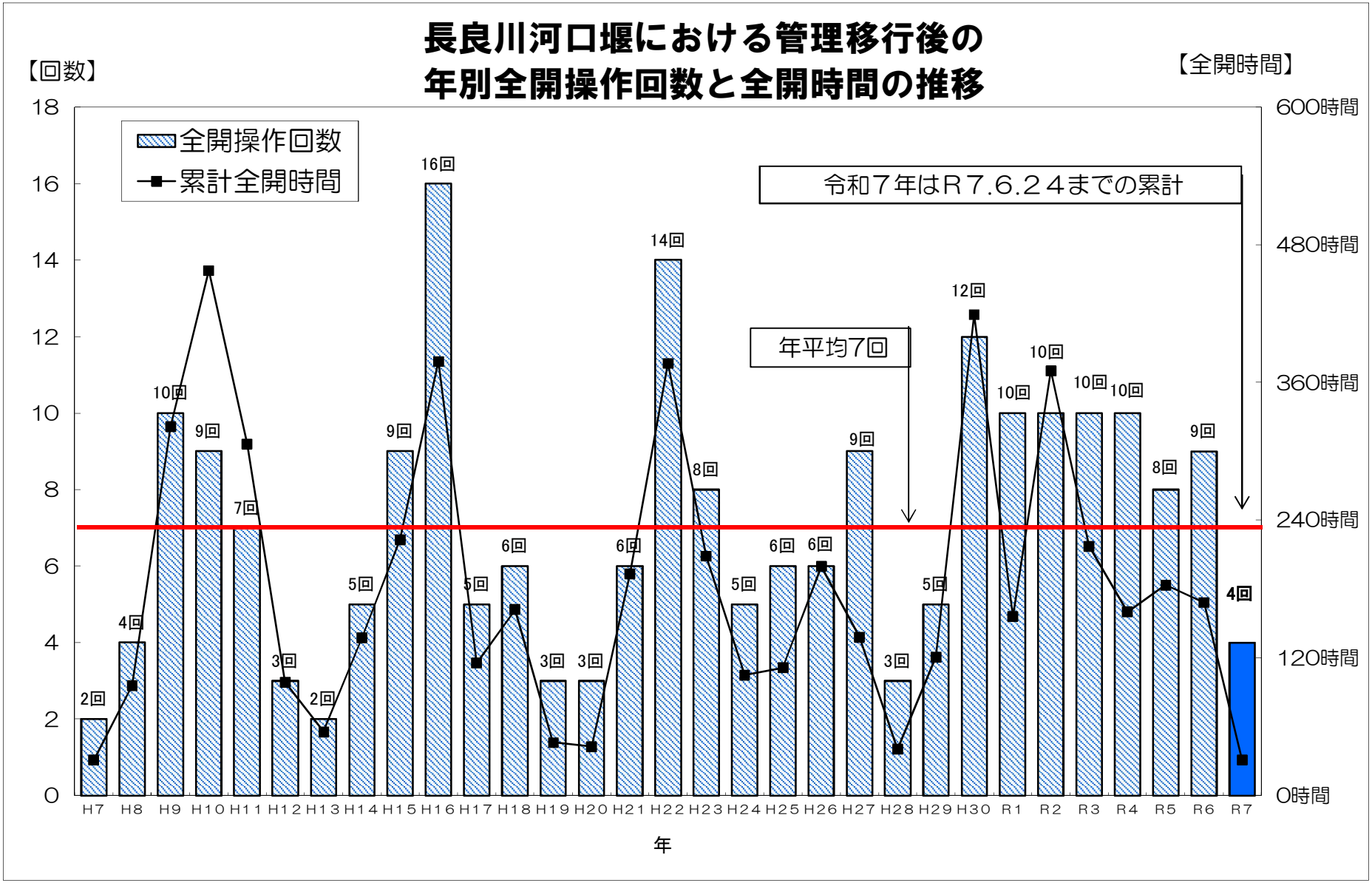
オーバーフロー操作に切り替え

■流域図

【基準地点】
忠節地点
（河口から50.2km）
福井県
長良川
飛騨川
木曽川
揖斐川
岐阜県
滋賀県
木曽川
牧田川
長野県
長良川河口堰
（河口から5.4km）
愛知県
三重県
静岡県
伊勢湾
長良川流域
長良川河口堰

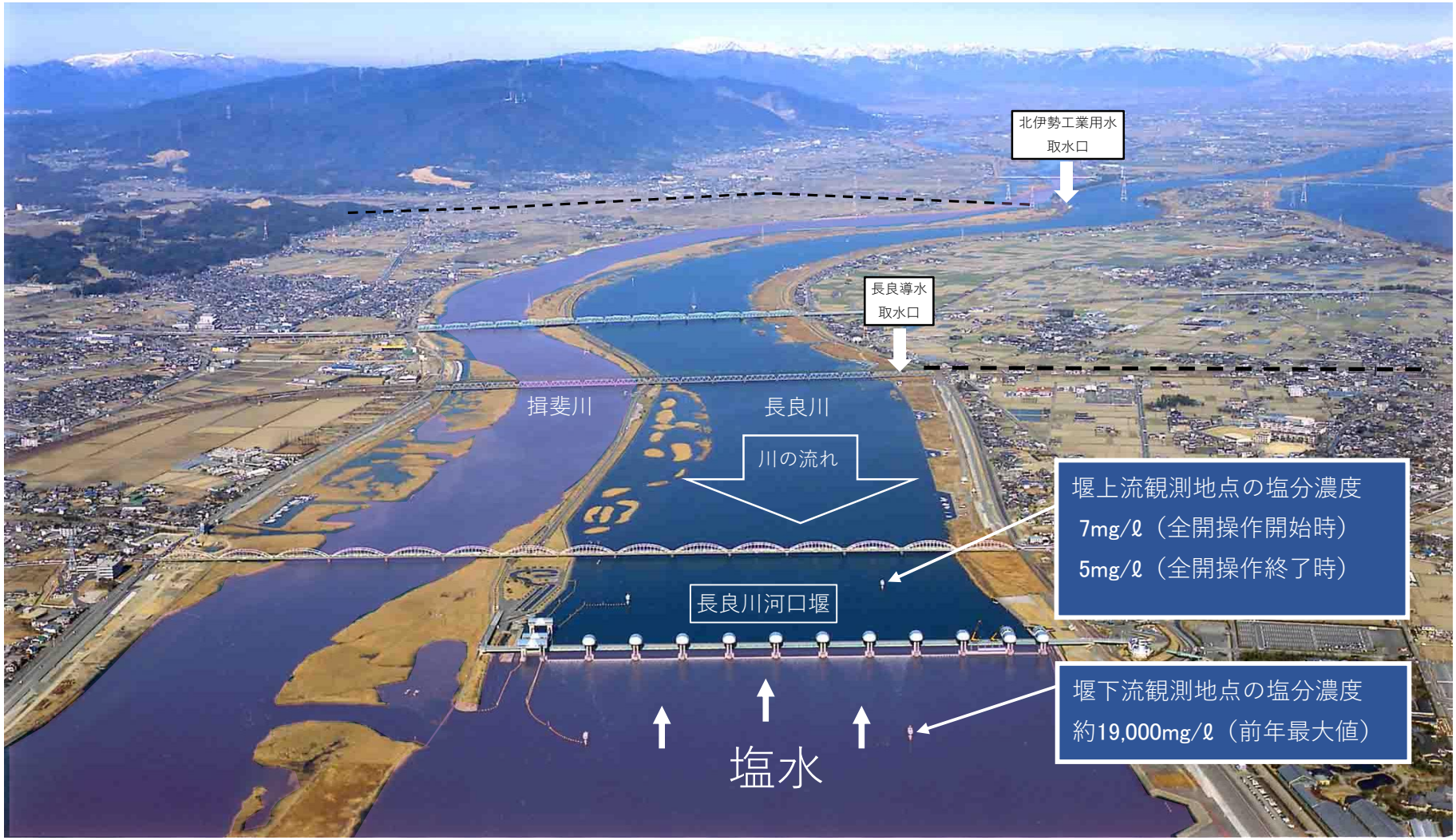
（参考資料2）

長良川河口堰における管理移行後の年別全開操作回数と全開時間の推移



※R7.6.24までの全開操作回数:　**219回**
※累計全開時間:5674時間 21分

長良川河口堰と堰上流取水地点との関係（堰上流１０ｋｍの範囲）　　**（参考資料3）**



長良川河口堰によって堰上流水域が淡水化され、新たに水道用水、工業用水の水が利用できるようになりました。
また、かんがい用水、工業用水（既得）などの既得用水についても、安定した取水が可能となっています。
飲用に適する塩分濃度は200mg/ℓ以下、工業用では20mg/ℓ以下であり堰上流部ではこれらの基準を満足しています。

※写真上の塩水の着色はイメージです。

長良川河口堰上流から下流を望む

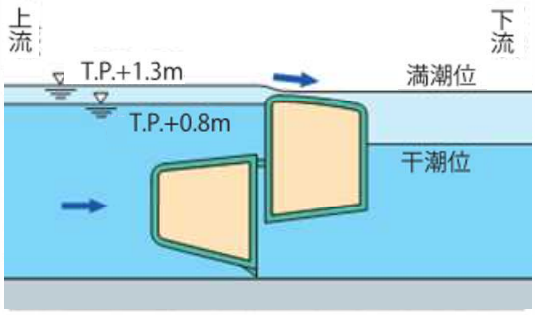
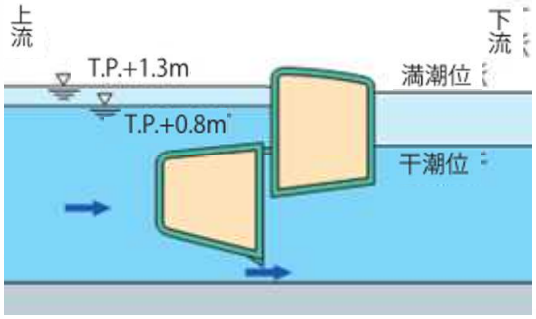
（参考資料4）

※写真上の塩水の着色はイメージです。

平常時の操作

河川環境の保全に配慮し、河川水をゲートの上から流すオーバーフロー操作と、ゲートの下を流すアンダーフロー操作を行い、常に河川水を流下させるとともに、塩水の遡上を防止しています。
塩水の遡上を防止することで安定的な取水が可能です。

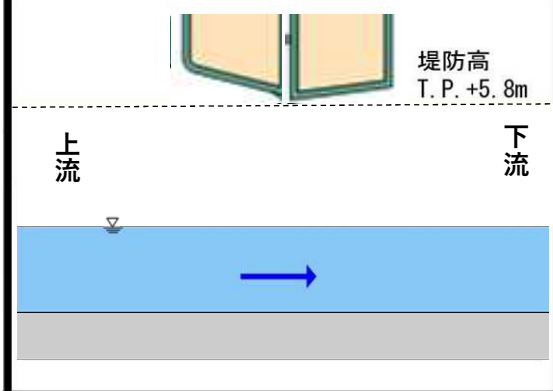
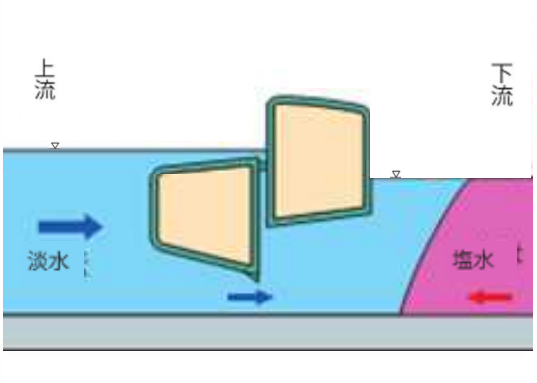
ゲート操作状況

オーバーフロー操作 上段扉を下げ 水をゲートの上から流す	アンダーフロー操作 下段扉を上げ 水をゲートの下から流す
	

洪水時の操作

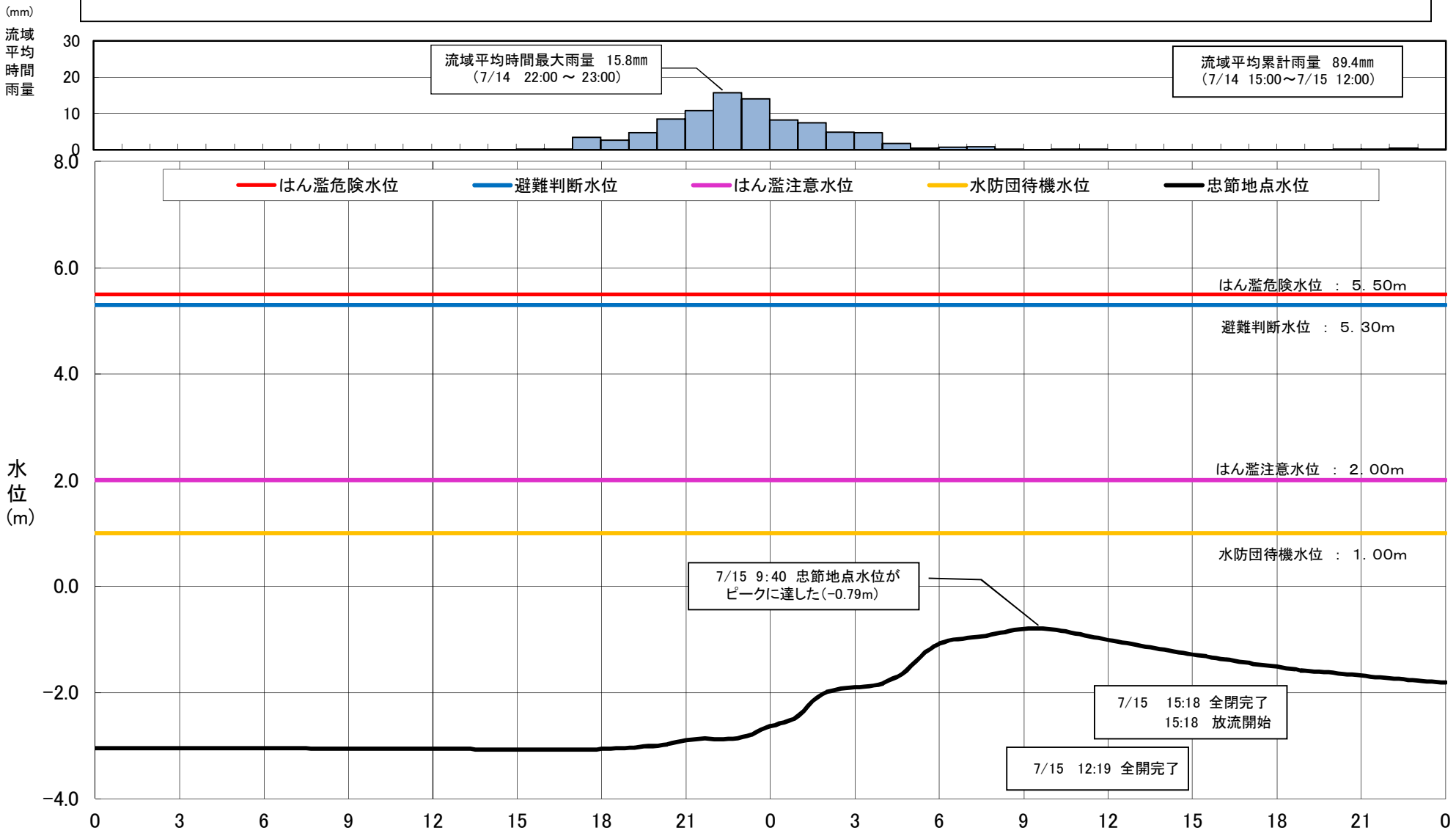
洪水時には全てのゲートを堤防高（標高5.8m）より高く引き上げ、洪水の流下に支障とならないようにゲートの全開操作を行います。
また、下流水位の条件などにより塩水が河口堰より上流に浸入するおそれがある場合には、塩水の浸入を防止する操作を行います。

ゲート操作状況

全開操作 ゲートを 堤防高より高く引き上げる	塩水の侵入を防止する操作 塩水が 侵入するおそれがある場合に行う
	

(参考資料6)

2025.07.15 堰上流基準地点(忠節地点)の河川水位

○長良川流域平均雨量　累計雨量　　89mm（7月14日 15時 ～ 7月15日 12時）

○忠節地点水位　　最高水位　－0．79m（7月15日 9時40分）(T.P. ＋11．77m)